

江南市

令和7年度家庭生活実態に関するアンケート調査結果

報告書



2026年2月

(令和8年2月)

江南市

# 目 次

I 調査概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査対象者 .....	1
3 調査方法 .....	1
4 実施期間 .....	1
5 調査対象及び有効回答状況 .....	1
II アンケート結果概要.....	2
III アンケート調査結果.....	3
IV 江南市のヤングケアラーの現状と今後の支援.....	22

# I 調査概要

## 1 調査の目的

ヤングケアラーは、令和6年6月に改正された子ども・若者育成支援推進法において「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と明記され、国・地方公共団体が各種支援に努めるべき対象とされています。

あわせてこども家庭庁支援局長から出された技術的助言において、実態把握や支援方法など具体的な支援のあり方について示されたところです。

このような動きを受け、市のヤングケアラーについての理解促進とその状況を把握し、今後の支援方針を検討するため、本アンケート調査を実施することとしました。

## 2 調査対象者（令和7年10月1日現在）

江南市立小学校5年生及び6年生 【在籍数 1,689人】

江南市立中学校1年生から3年生 【在籍数 2,539人】

## 3 調査方法

児童・生徒に配布されている学習用端末（クロームブック）を使用し、WEB形式でアンケートを実施しました。

## 4 実施期間

令和7年10月14日（火）～ 令和7年10月28日（火）

## 5 調査対象及び有効回答状況

対象学年	対象児童・生徒数	有効回答数	有効回答率
小学5年生	856人	712人	83.2%
小学6年生	833人	712人	85.5%
中学1年生	829人	720人	86.9%
中学2年生	859人	650人	75.7%
中学3年生	851人	519人	61.0%
計	4,228人	3,313人	78.4%

## Ⅱ アンケート結果概要

### 【調査結果の留意事項について】

- ・比率はすべてパーセント（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位で表記しています。そのため、比率の合計が100%にならないこともあります。
- ・回答率（％）はその質問の回答した児童・生徒数を母数として算出しています。
- ・比率について一問一答の設問は合計が100%となりますが、複数回答が可能な設問では、母数は回答した児童・生徒数とし、その項目を選択した児童・生徒が全体からみて何%かわかるように表記しました。そのため、各項目の比率の合計が100%を超える場合があります。

○調査対象となった児童・生徒数は、4,228人で、有効回答数は、3,313人でした。有効回答率は、78.4%で、学年ごとでは、小学5年生が83.2%、小学6年生が85.5%、中学1年生が86.9%、中学2年生が75.7%、中学3年生が61.0%となりました。

○家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている児童の割合は、40.2%（1,332人）で、小学生は、40.2%（573人）、中学生は、40.2%（759人）となっていて、小学生と中学生による差はみられませんでした。

○家事（家の仕事）やお世話の相手としては、おもに「母親」の73.6%（981人）、「父親」の31.9%（425人）、「弟」が14.6%（195人）の順となっています。「兄」「姉」「弟」「妹」を「きょうだい」としてまとめると40.2%（535人）となり、「父親」を超える結果となりました。

○家事（家の仕事）やお世話をすることで、できないこと、できなくなることについては、おもに「特にない」の83.4%（1,111人）、「自分の好きなことができない」の8.6%（114人）、「自分の時間がない」の5.5%（73人）の順となりました。

○家事（家の仕事）やお世話をするとき、どんな気持ちになるかについては、おもに「特に何も思わない」が55.0%（733人）、「楽しい」が21.2%（283人）、「やりがいがある」が20.3%（271人）、「体がつかれる」が15.9%（212人）、「いやな気持ちになる」が4.6%（61人）の順となっていて、肯定的な意見が否定的な意見より多い結果となりました。

○家事（家の仕事）やお世話について、話したり相談できる人について、おもに「家族」の 87.8%（929人）、「友達」の61.2%（647人）、「保健室の先生」が20.9%（221人）の順となっています。「保健室の先生」「学校の先生（保健室の先生以外）」「スクールソーシャルワーカー」「スクールカウンセラー」「心の教室の相談員」をまとめると53.8%（569人）となり、半数以上の児童・生徒が学校関係職員に話したり相談できる人がいる結果となりました。

○ヤングケアラーを知っていますかという問いについて、「はい」が28.1%（932人）、「いいえ」が70.9%（2,348人）、未回答が1.0%（33人）となっています。「はい」と答えた児童・生徒の割合をみると、小学生が20.4%（291人）で、中学生が33.9%（641人）となりました。

○あなた自身はヤングケアラーにあてはまりますかという問いについて、「あてはまる」が2.4%（80人）、「あてはまらない」が69.3%（2,295人）、「わからない」が25.8%（854人）、「答えたくない」が2.1%（68人）、「未回答」が0.5%（16人）でした。「あてはまる」と答えた児童・生徒の割合をみると、小学生が2.7%（38人）、中学生が2.2%（42人）となっていて、近い割合となりました。

### Ⅲ アンケート調査結果

**問1** あなたの学年を教えてください。

●回答合計数：3,313件（あてはまるものを1つ選ぶ）

回答	有効回答数	割合
小学5年生	712	21.5%
小学6年生	712	21.5%
中学1年生	720	21.7%
中学2年生	650	19.6%
中学3年生	519	15.7%
計	3,313	100%

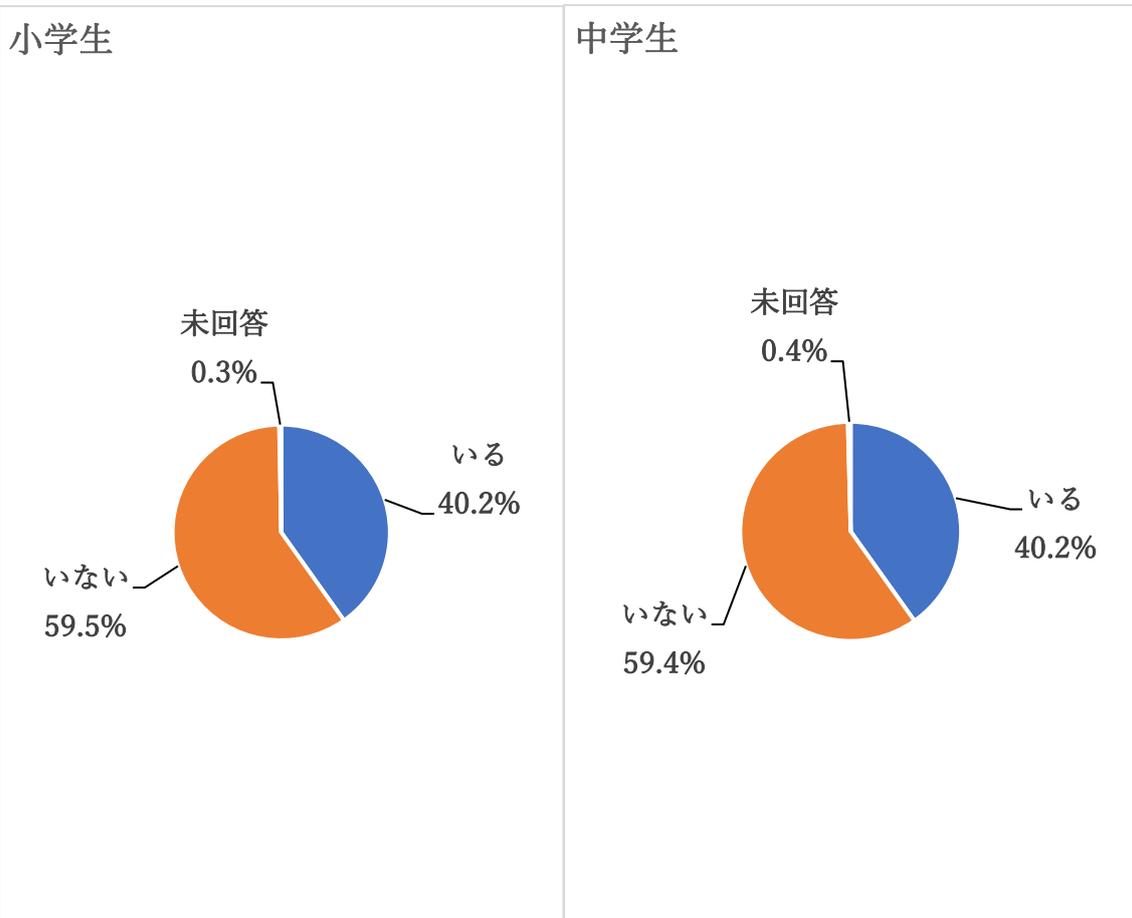
問 2

あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている人はいますか。  
※ここで言う「家事（家の仕事）」と「お世話」は、本来なら大人がするような家事や役わりを行ったり、家族のお世話をしたりすること  
例：家事（料理、そうじ、せんたく）、きょうだいのお世話、外出のつきそい（買い物、散歩など）、病院のつきそい、通やく、トイレやお風呂のお手伝い、お金の管理 など

「あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている人はいますか。」という問いに対して、「いる」と回答した割合は、全体で40.2%（1,332人）という結果でした。小学生と中学生の割合が同じで、差はありませんでした。

●回答合計数：3,313件

回答	いる	いない	未回答	計
小学生	573	847	4	1,424
中学生	759	1,123	7	1,889
計	1,332	1,970	11	3,313

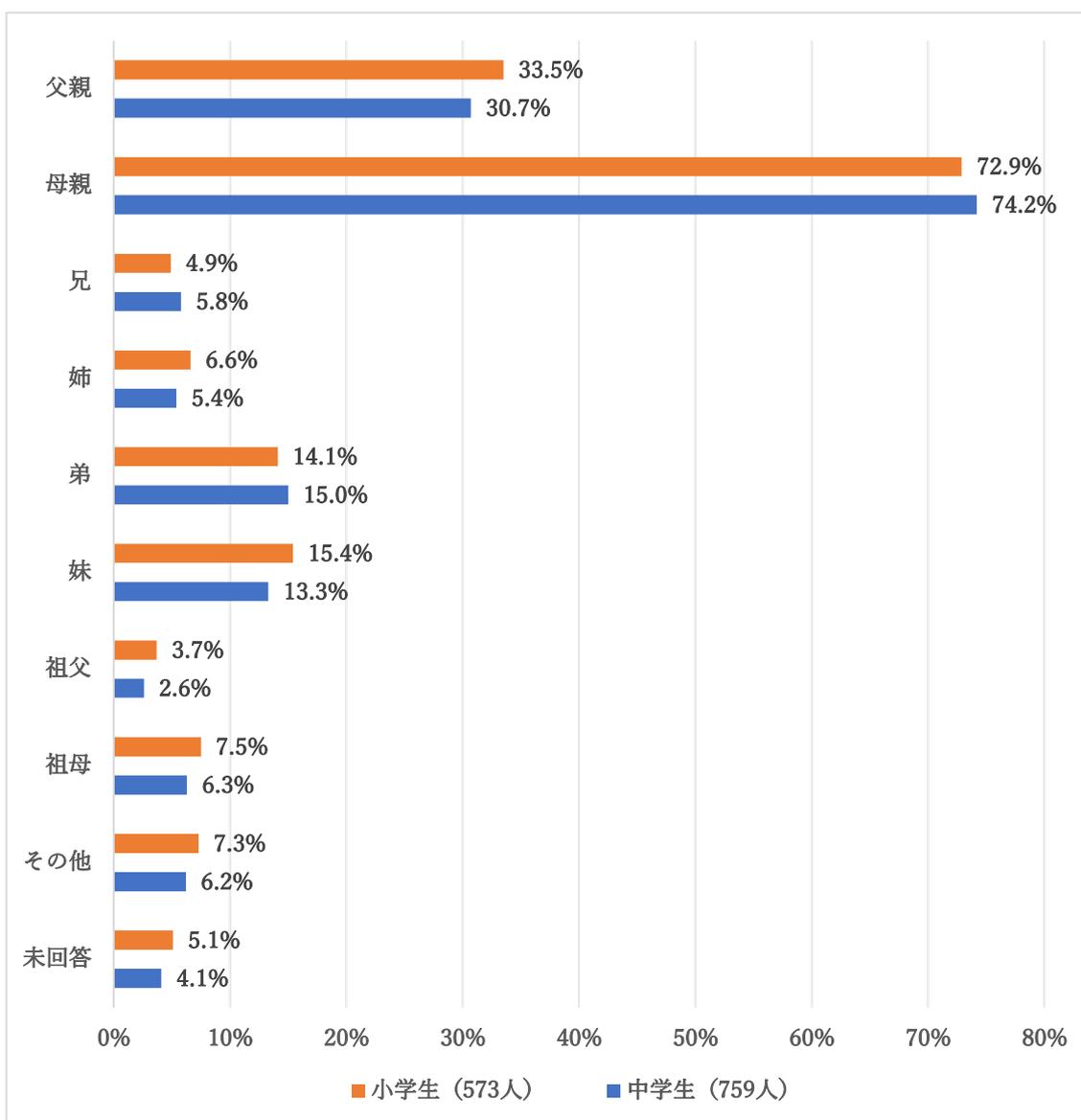


**問3** あなたは誰の家事（家の仕事）やお世話をしていますか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたは誰の家事（家の仕事）やお世話をしていますか。」という問いに対して、全体で「母親」が73.6%（981人）ともっとも高く、次いで「父親」が31.9%（425人）、「弟」が14.6%（195人）となっています。

●回答合計数：1,332件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	父親	母親	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他	未回答	計
小学生	192	418	28	38	81	88	21	43	42	29	980
中学生	233	563	44	41	114	101	20	48	47	31	1,242
計	425	981	72	79	195	189	41	91	89	60	2,222

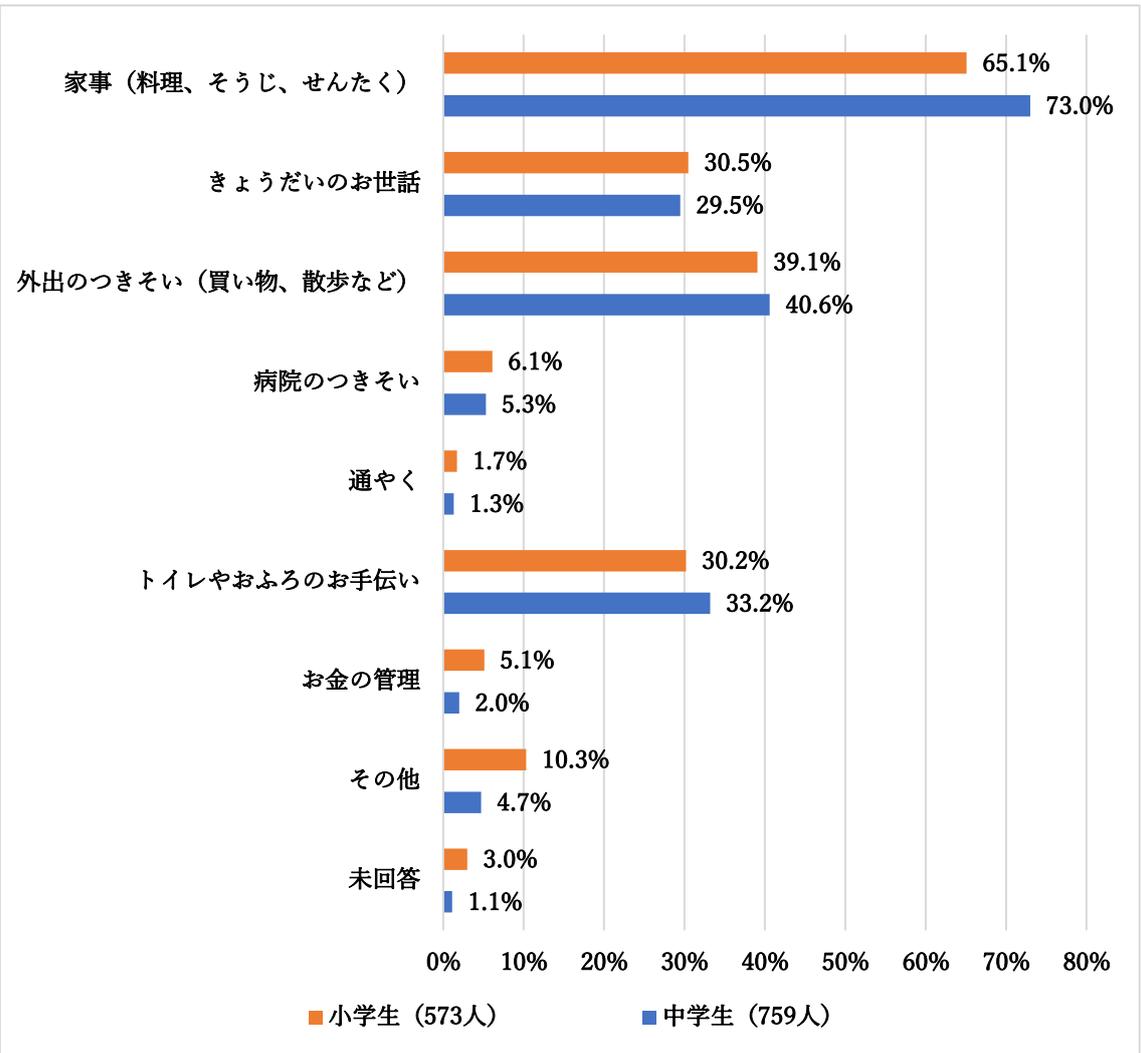


**問4** あなたはどんな家事（家の仕事）やお世話をしていますか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたはどんな家事（家の仕事）やお世話をしていますか。」という問いに対して、全体で「家事（料理、そうじ、せんたく）」が69.6%（927人）ともっとも多く、次いで「外出のつきそい（買い物、散歩など）」が39.9%（532人）、「トイレやお風呂のお手伝い」が31.9%（425人）となっています。

●回答合計数：1,332件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	家事（料理、 そうじ、せんたく）	きょうだい のお世話	外出のつきそい （買い物、散歩など）	病院の つきそい	通やく	トイレやおふ ろのお手伝い	お金の 管理	その他	未回答	計
小学生	373	175	224	35	10	173	29	59	17	1,095
中学生	554	224	308	40	10	252	15	36	8	1,447
計	927	399	532	75	20	425	44	95	25	2,542



問5

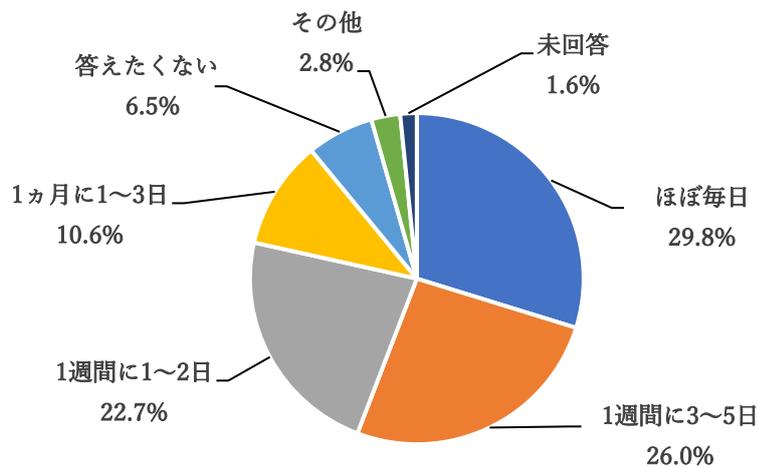
あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている回数は、どのくらいですか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている回数は、どのくらいですか。」という問いに対して、全体で「ほぼ毎日」が27.5%（366人）ともっとも高く、次いで「1週間に1～2日」が26.5%（353人）、「1週間に3～5日」が26.1%（347人）となっています。

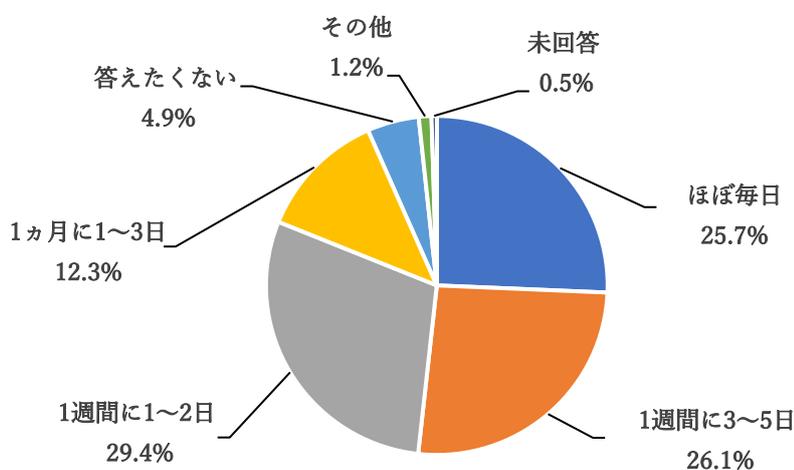
●回答合計数：1,332件

回答	ほぼ毎日	1週間に3～5日	1週間に1～2日	1ヵ月に1～3日	答えたくない	その他	未回答	計
小学生	171	149	130	61	37	16	9	573
中学生	195	198	223	93	37	9	4	759
計	366	347	353	154	74	25	13	1,332

小学生



中学生



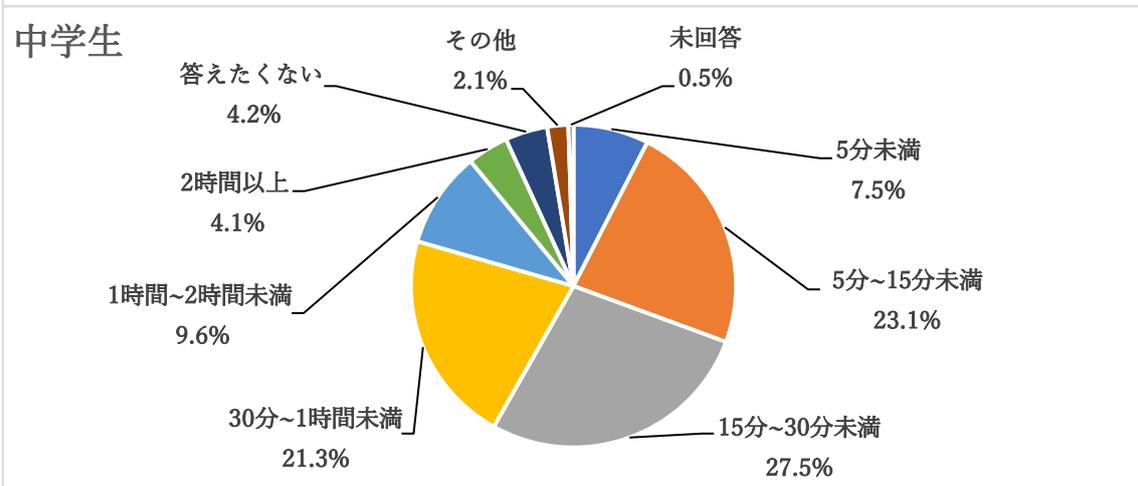
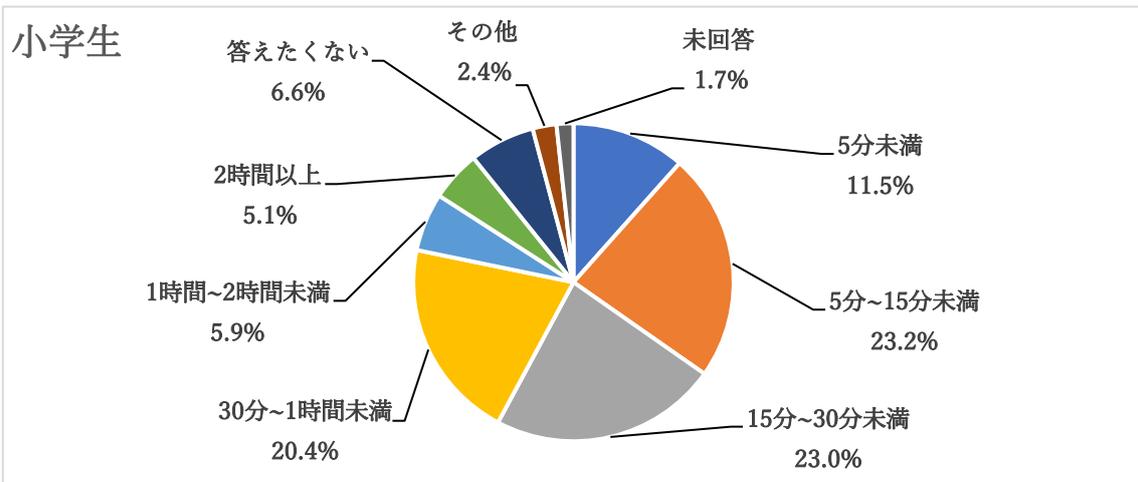
問6

あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている時間は、1日のうちだいたいどのくらいですか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたが家事（家の仕事）をしたり、お世話をしている時間は、1日のうちだいたいどのくらいですか。」という問いに対して、全体で「15分から30分未満」が25.6%（341人）ともっとも高く、次いで「5分から15分未満」が23.1%（308人）、「30分から1時間未満」が20.9%（279人）となっています。

●回答合計数：1,332件

回答	5分未満	5分から 15分未満	15分から 30分未満	30分から 1時間未満	1時間から 2時間未満	2時間 以上	答えた くない	その他	未回答	計
小学生	66	133	132	117	34	29	38	14	10	573
中学生	57	175	209	162	73	31	32	16	4	759
計	123	308	341	279	107	60	70	30	14	1,332



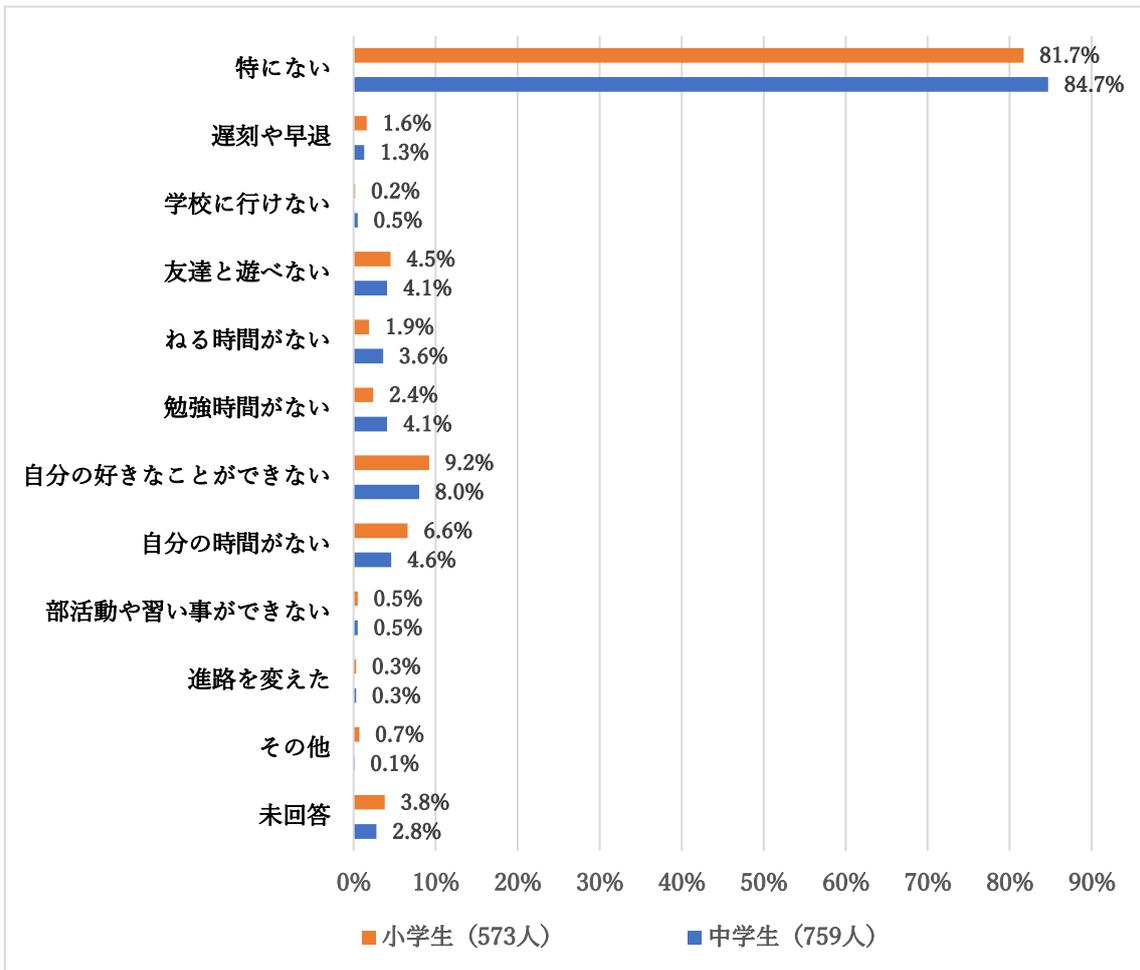
問7

あなたが家事（家の仕事）やお世話をすることで、できないこと、できなくなることはありますか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたが家事（家の仕事）やお世話をすることで、できないこと、できなくなることはありますか。」という問いに対して、全体で「特にない」が83.4%（1,111人）ともっとも高く、次いで「自分の好きなことができない」が8.6%（114人）、「自分の時間がない」が5.5%（73人）となっています。

●回答合計数：1,332件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	特にない	遅刻や早退	学校に行けない	友達と遊べない	ねる時間がない	勉強時間がない	自分の好きなことができない	自分の時間がない	部活動や習い事ができない	進路を変えた	その他	未回答	計
小学生	468	9	1	26	11	14	53	38	3	2	4	22	651
中学生	643	10	4	31	27	31	61	35	4	2	1	21	870
計	1,111	19	5	57	38	45	114	73	7	4	5	43	1,521

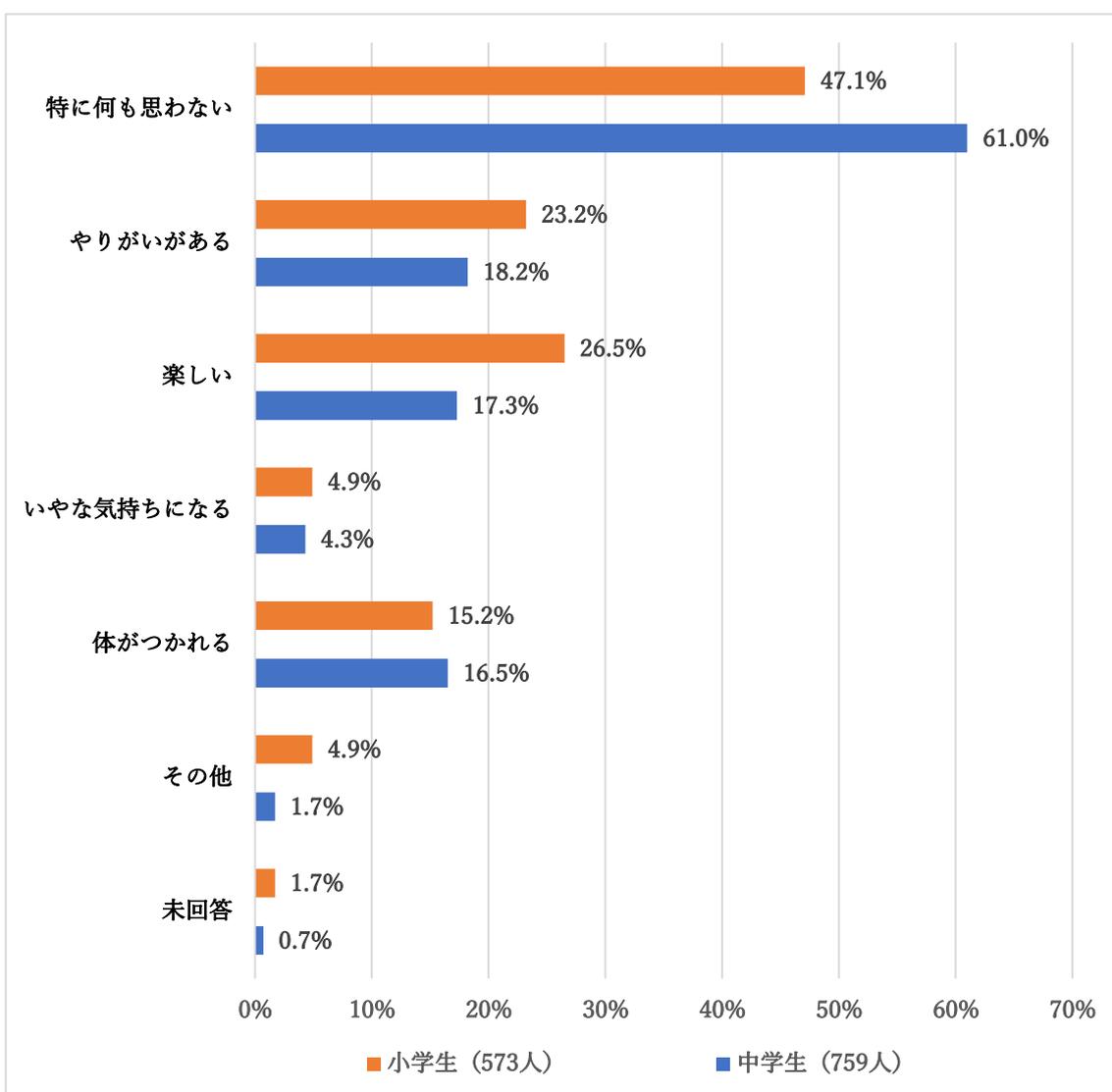


**問8** あなたは家事（家の仕事）やお世話をするとき、どんな気持ちですか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたは家事（家の仕事）やお世話をするとき、どんな気持ちですか。」という問いに対して、全体で「特に何も思わない」が55%（733人）ともっとも高く、次いで「楽しい」が21.2%（283人）、「やりがいがある」が20.3%（271人）となっています。

●回答合計数：1,332件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	特に何も思わない	やりがいがある	楽しい	いやな気持ちになる	体がつかれる	その他	未回答	計
小学生	270	133	152	28	87	28	10	708
中学生	463	138	131	33	125	13	5	908
計	733	271	283	61	212	41	15	1,616



**問9**

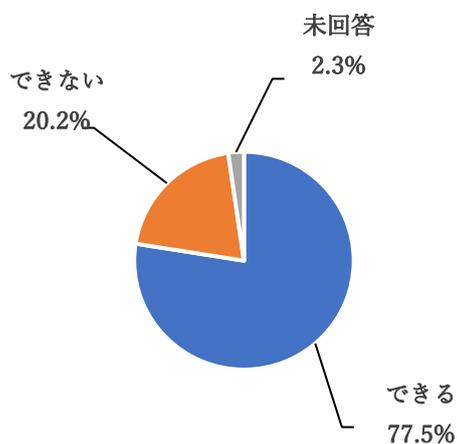
あなたの家事（家の仕事）やお世話について、だれかに話したり相談することは  
できますか。

問2で「いる」と答えた1,332人のうち、「あなたの家事（家の仕事）やお世話について、だれかに話したり相談することはできますか。」という問いに対して、「できる」と回答した割合は全体として79.4%（1,058人）という結果でした。学年ごとでみると、小学生は、77.5%（444人）、中学生は、80.9%（614人）となっていて、大きな差は見られませんでした。

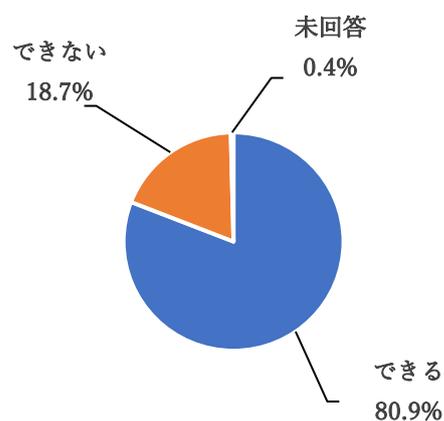
●回答合計数：1,332件

回答	できる	できない	未回答	計
小学生	444	116	13	573
中学生	614	142	3	759
計	1,058	258	16	1,332

小学生



中学生



問 10

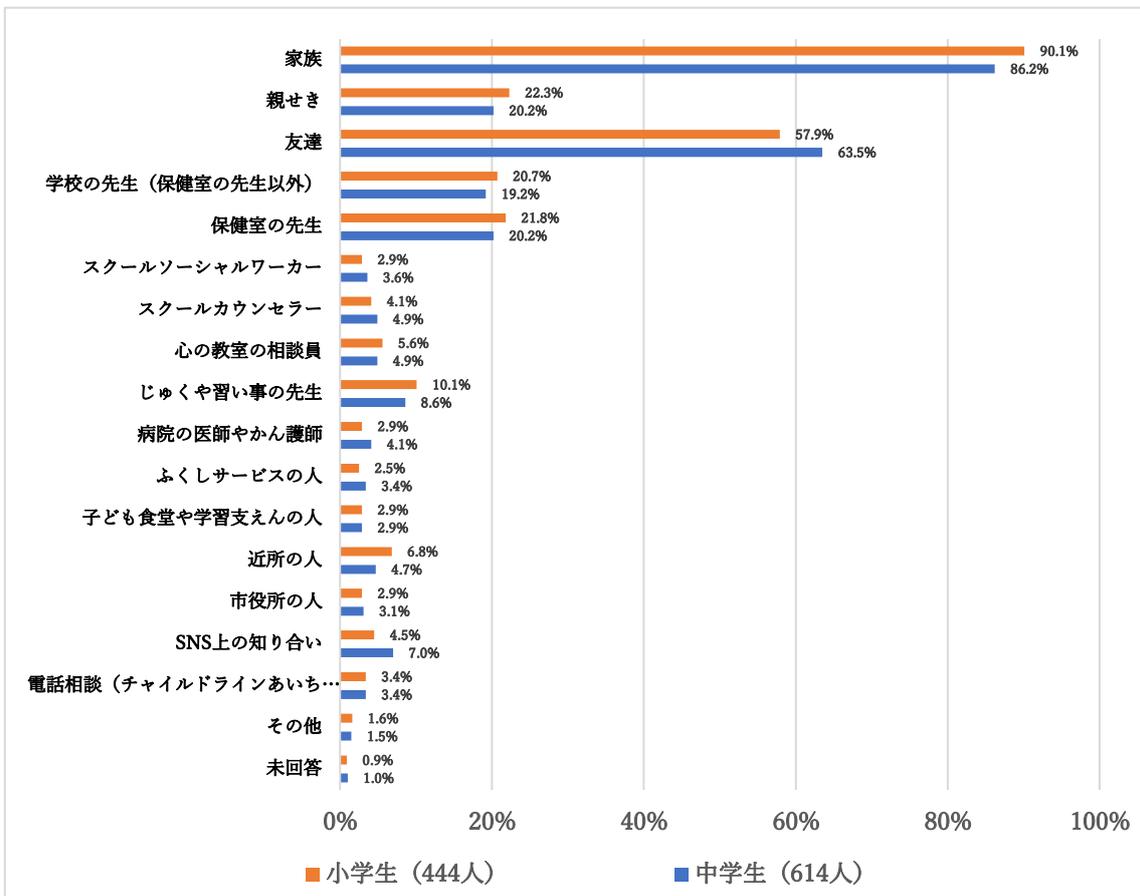
あなたが家事（家の仕事）やお世話について、話したり相談できる人はだれですか。

問9で「できる」と答えた1,058人のうち、「あなたが家事（家の仕事）やお世話について、話したり相談できる人はだれですか。」という問いに対して、全体で「家族」が87.8%（929人）ともっとも高く、次いで「友達」が61.2%（647人）、「保健室の先生」が20.9%（221人）となっています。

●回答合計数：1,058件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	家族	親せき	友達	学校の先生	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー	スクールカウンセラー	心の教室の相談員	じゅくや習い事の先生	病院の医師やかん護師
小学生	400	99	257	92	97	13	18	25	45	13
中学生	529	124	390	118	124	22	30	30	53	25
計	929	223	647	210	221	35	48	55	98	38

回答	ふくしサービスの人	子ども食堂や学習支えんの人	近所の人	市役所の人	SNS上の知り合い	電話相談（チャイルドラインあいちなど）	その他	未回答	計
小学生	11	13	30	13	20	15	7	4	1,172
中学生	21	18	29	19	43	21	9	6	1,611
計	32	31	59	32	63	36	16	10	2,783



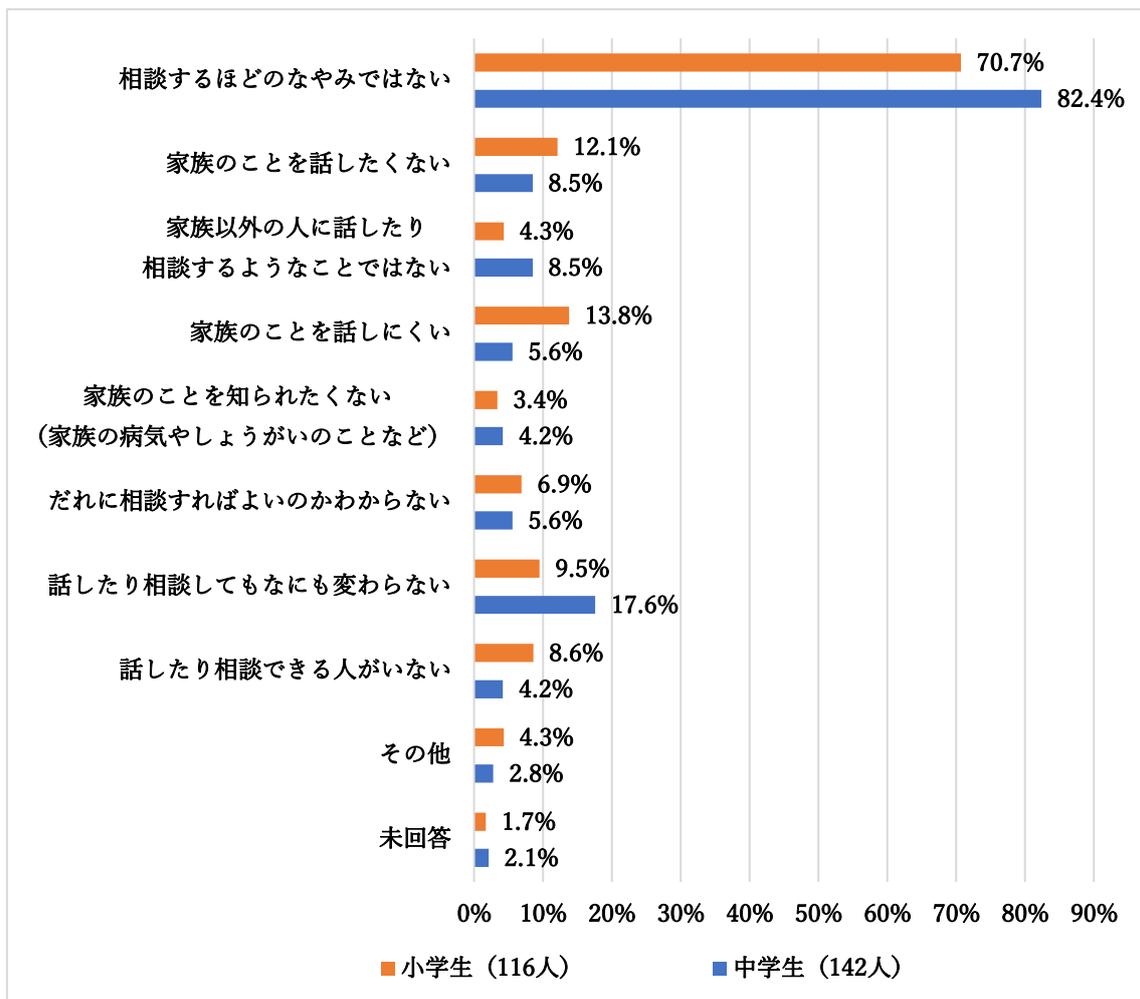
問 11

あなたが家事（家の仕事）やお世話について、話したり相談できない理由は何ですか。

問9で「できない」と答えた258人のうち、「あなたが家事（家の仕事）やお世話について、話したり相談できない理由は何ですか。」という問いに対して、全体で「相談するほどのなやみではない」が77.1%（199人）ともっとも高く、次いで「話したり相談しても、なにも変わらない」が14.0%（36人）、「家族のことを話したくない」が10.1%（26人）となっています。

●回答合計数：258件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	相談するほどのなやみではない	家族のことを話したくない	家族以外の人に話したり相談するようなことではない	家族のことを話しにくい	家族のことを知られたくない（家族の病気やしょうがいのことなど）	だれに相談すればよいのかわからない	話したり相談してもなにも変わらない	話したり相談できる人がいない	その他	未回答	計
小学生	82	14	5	16	4	8	11	10	5	2	157
中学生	117	12	12	8	6	8	25	6	4	3	201
計	199	26	17	24	10	16	36	16	9	5	358



問 12

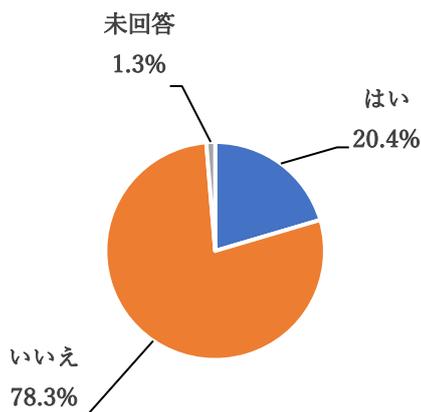
あなたはヤングケアラーを知っていますか。  
 ※ヤングケアラーとは、「家族のかい護その他の日常生活上の世話を過度に行っている」とみとめられる子ども・わか者」のことで、いっばんに皆さんが家庭内での役わりとして行っている家事（家の仕事）やお世話と比べて、皆さんの年れいや成長度合いに見合わないほどの重い負たんや責任をもっている子どものことです。

「あなたはヤングケアラーを知っていますか。」という問いに対して、「はい」と回答した割合は全体として28.1%（932人）という結果でした。学年ごとでみると、小学生は、20.4%（291人）、中学生は、33.9%（641人）となっています。

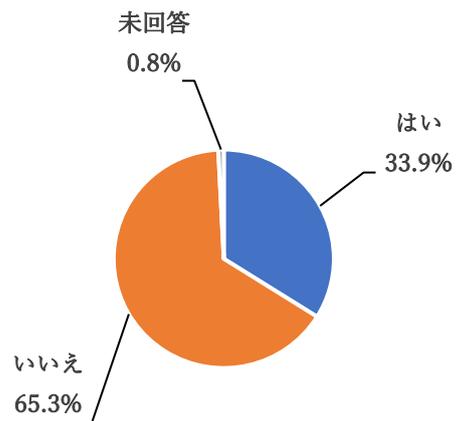
●回答合計数：3,313件

回答	はい	いいえ	未回答	計
小学生	291	1,115	18	1,424
中学生	641	1,233	15	1,889
計	932	2,348	33	3,313

小学生



中学生

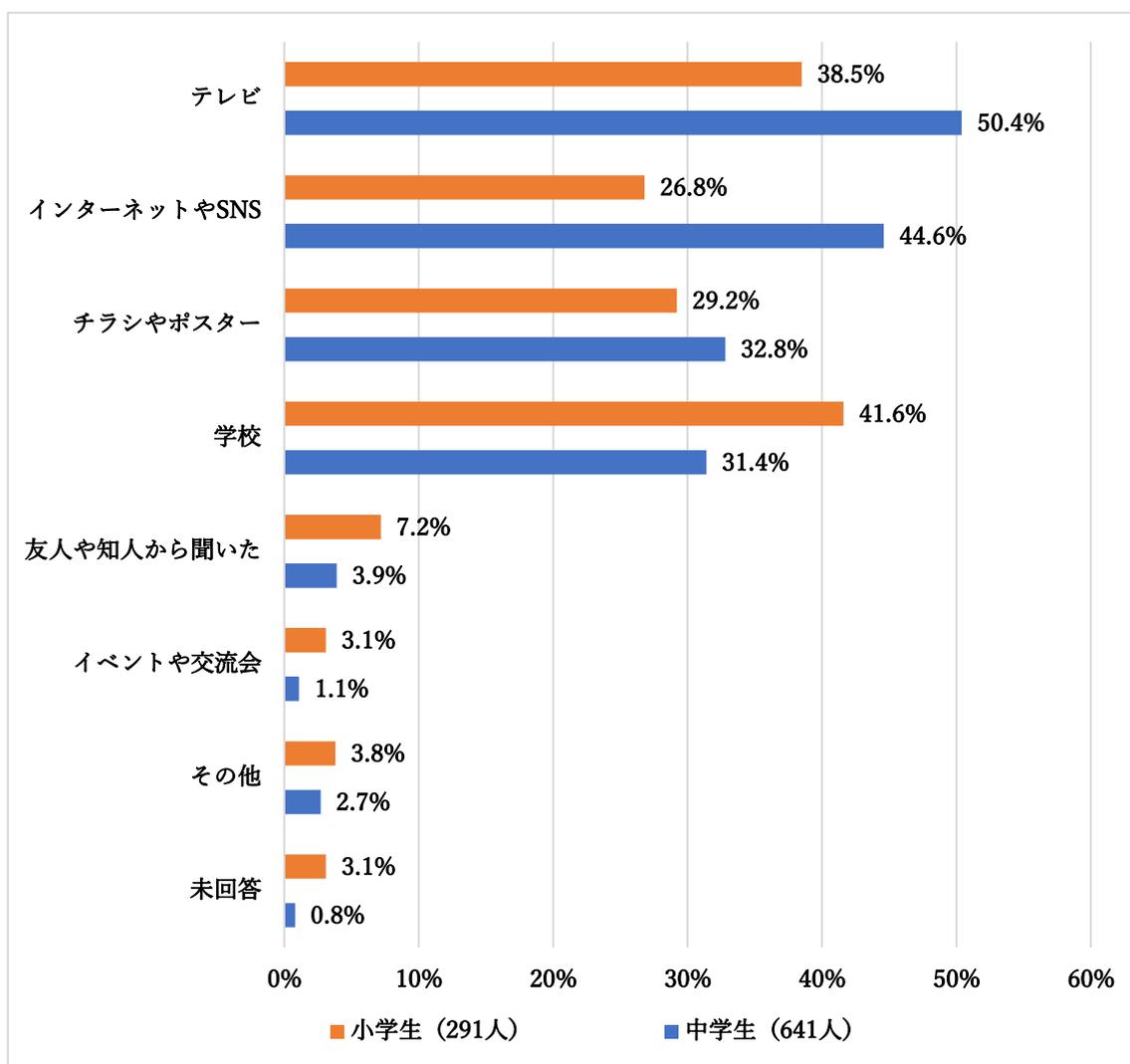


**問 13** あなたはヤングケアラーを何で知りましたか。

問 12 で「はい」と答えた 932 人のうち、「あなたはヤングケアラーを何で知りましたか。」という問いに対して、全体で「テレビ」が 46.7% (435 人) ともっとも高く、次いで「インターネットや SNS」が 39.1% (364 人)、「学校」が 34.5% (322 人) となっています。

●回答合計数：932件（あてはまるものをすべて選ぶ）

回答	テレビ	インターネット や SNS	チラシや ポスター	学校	友人や知人 から聞いた	イベントや 交流会	その他	未回答	計
小学生	112	78	85	121	21	9	11	9	446
中学生	323	286	210	201	25	7	17	5	1,074
計	435	364	295	322	46	16	28	14	1,520



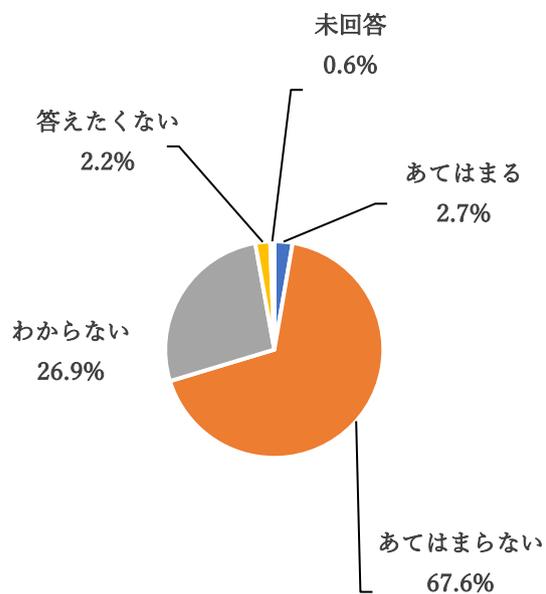
**問 14** あなた自身はヤングケアラーにあてはまると思えますか。

「あなた自身はヤングケアラーにあてはまると思えますか。」という問いに対して、「あてはまる」と回答した割合は全体として2.4% (80人) という結果でした。学年ごとでみると、小学生は、2.7% (38人)、中学生は、2.2% (42人) となっています。

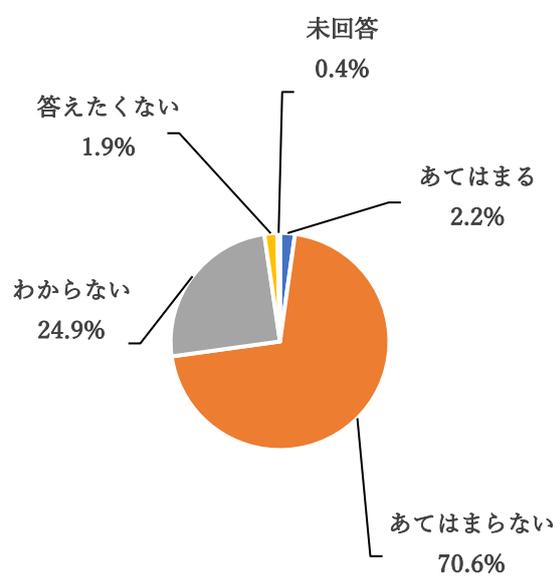
●回答合計数：3,313件

回答	あてはまる	あてはまらない	わからない	答えたくない	未回答	計
小学生	38	962	383	32	9	1,424
中学生	42	1,333	471	36	7	1,889
計	80	2,295	854	68	16	3,313

小学生



中学生



問 15

ヤングケアラーについて周りの大人にしてほしいことや必要だと思うこと、助けて欲しいことはありますか。

●意見数 309 件のうち、主な意見について原文どおり掲載

相談先を増やしてほしい
悩みや相談に乗ってあげられるようにヤングケアラーの相談所を増やしてほしい。
ヤングケアラーの人を助けるために、気軽に相談できる場所や電話を少し増やしたほうが良いと思った。
ヤングケアラーで学校に行けない子供のためにサービスや相談窓口を増やしてほしい。
ヤングケアラーのリハビリ場所をもっと増やした方が良い。
ずっと家族などのお世話で学校に行けない人などがいたら、助けてあげられるサービスを増やしてほしい。
ヤングケアラーの相談先を全国にもっと分かるように広めてほしい
ヤングケアラーをもっとみんなに知ってほしい。
ヤングケアラーの相談先をもっと周知して欲しい。
ヤングケアラーの存在をもっと周知してほしい
ヤングケアラー自体の存在をもっとみんなに知らせてあげたほうが良いと思う。
もっとみんながヤングケアラーのことを知ってそれに対応できる人が増えてほしい。
ヤングケアラーがどのようなことか大人たちに知ってほしい。
ヤングケアラーを知らなかったからもっと他の人に知ってほしい。
ヤングケアラーの存在を広めてほしい
ヤングケアラーのことももっとたくさんの大人に知ってほしい。
ヤングケアラーが負う責任感についてもっと知ってほしい。
ヤングケアラーをみんなにもっと知ってもらって、相談したい人がいれば相談先を教えたいと思った。
もっと話しやすい環境をつくる。
ヤングケアラーが少しでも休める場所を作ってほしい。
ヤングケアラーについて話しやすい空間があると良いと思う。
ヤングケアラーの子が過ごしやすい環境を作るのが必要だと思う。
ヤングケアラーの人が伸び伸びと休める場所と環境を用意してあげてほしい。
ヤングケアラーの方が困ったときに相談できる環境をつくること
ヤングケアラー同士の交流会とかで相談やリラックスできる場をつくる
ヤングケアラーという存在をもっと知ってもらえる活動をしてほしい
ヤングケアラーのことももっとたくさんの大人に知ってほしい。
ヤングケアラーの人が増えないようにしてほしい

<p>私はヤングケアラーではないからあまりわからないけれど、もしもこの子ヤングケアラーじゃないの？っていう子がいたらもっと周りの大人が寄り添ってあげることが大切だと思う。あとは、子ども食堂とかもっと増やせばいいと思う。そういう子が気楽に休めるようなそんな場所作ったらいいと思う。話聞いてあげることと、もっとヤングケアラーについて理解を深めることが大切。</p>
<p>親の勝手な都合でヤングケアラーをなるべく増やさないで欲しい。</p>
<p>ヤングケアラーについてもっと色々な人に知らせ、みんながヤングケアラーを知ってもらい、もっと相談できる場所、または相談できる友達などをもっともっと増やせると良いと思います。また、ヤングケアラー自身も自分はヤングケアラーということがわかってなく、自分で悩みを抱えてしまうのではないのだろうと思うので、このアンケートのようなものをもっと増やしたり、学び教室などをするともっと色々な人が知れるし、自分自身が、「あ、わたしヤングケアラーかも」と思い相談できたりなど、たくさんのメリットがあるのでもっとアンケートや、教室などを作れば良いと思います。</p>
<p>ヤングケアラーについて初めて知ったので、もっと子供でも大人でもたくさんの人に知ってもらった方がよいと思う。</p>
<p>ヤングケアラーについて知らない人もいると思うから、学校や公共施設でヤングケアラーについての説明会とかをやったらいいと思う。</p>
<p>ヤングケアラーにより学校で勉強する時間が減ったり、人間関係がうまくいかないインターネットなどで見たので、周りの大人はサポートや、例に書いてあるようにヤングケアラーの相談先をもっと周知してほしいです。</p>
<p>ヤングケアラーの気持ちや大変さを知って助けてあげてほしい。すべて任せっぱなしにしてしまうのはいけないと思う。</p>
<p>ヤングケアラーの人をサポートするシステムなどを設置してほしい。システムがあるならもっと周りに周知してほしい</p>
<p>ヤングケアラーの大変さ、辛さをもっと知ってほしい。</p>
<p>学校等で、教えて下さい。自分ももう少し詳しく知りたいです。</p>
<p>自分がヤングケアラーのことをもっと知ってほしい。(わかってほしい)</p>
<p>自分から言うことは難しいこと。いつでもご連絡くださいとかいうダイヤルはあるけど、それに、自分の意志で連絡することは難しいと思うから、ヤングケアラーしていそうな子の、身辺調査とか、自分から言わないでも大人が気づくような制度を取り入れたほうが良いと思います。</p>
<p>相談先の知名度を上げたり、相談しやすい環境だとしらせることが必要だと思った。そしてすぐ援助が入るようにしたほうが良いと思った</p>
<p>しょうがなく勉強や遊びができなく困っている子供が世の中にはたくさんいることを知ってほしい。</p>
<p>もっと子供のことを知って気づかってほしい</p>

ヤングケアラーが負う責任感についてもっと知ってほしい。
ヤングケアラーについてわからなかったから、もっとそれについて知りたい。
ヤングケアラーをもっと広め対策方法を考えてほしい
親の都合で学校や習い事に行けない子供に支援や、もっと優しく接することが大切だと思います
カウンセリングをもっとしてほしい。
「お姉ちゃん、お兄ちゃんだから」という理由とかで大人がしなければならない、手伝わなければいけないことを子どもに任せないこと
周りの大人達が早く気づいてほしい。
このアンケートのようにヤングケアラーの人がいるかなどのアンケートをもっとたくさん取ってヤングケアラーの人への支援などにつなげてほしいと思う。
こんなアンケートではヤングケアラーはヤングケアラーと言わない。なぜなら本人に自覚がないことが多いから
すべて親がやって下さいとは言わないが、責任が重いことや子供ができないことは親がやることは大切だと思う。
そういう子がいるんなら周りの大人が気を利かせて面倒を見てあげてほしい
その家庭の普通が世間的に普通じゃなくても、その家庭にとっては普通だから、どこからどこまでがヤングケアラーなのかの基準が欲しい。
その人に責任を押し付けすぎない、周りと同様に配慮する、違いを認めて周りとのペースが合うようにする
その人の家に近い近所の方が家に行って手伝ってあげたりしたらいいと思う。
その人の事情をしっかりと理解して相談にのったり無理に親や周りの大人に連絡しようとしなくてあげること。
その人の負担を軽減する活動
ちゃんと家事の分担をしてほしい
ちゃんと子供は子供、大人は大人として生活してほしい。
どういうふうに相談するのかをもっとはっきりしたほうがいいと思う
なるべく子供が自分の好きなように過ごせたり、友だちと遊んだり自由に過ごせるようにしてあげたい。
ボランティアでヤングケアラーのこの家に行き手伝ってあげるとか、、、
もしもヤングケアラーの人がいたら気を使ってほしい。
もし自分がヤングケアラーだったら先生などに相談したい。
もっと、子供に気を使ってほしい。
もっとヤングケアラーの人に寄り添ってあげてほしい
もっとヤングケアラーを助けてあげてほしい

もっと学校でヤングケアラーについて学んだりする機会をもっと作ったほうが良いと思います。
もっと楽になって友達とたくさん遊びたい。
もっと具体的な例をあげてほしい。そもそもなんでヤングケアラーが危険視されているのか子供に伝わってないと思う。だからもっと伝えられる機会があったほうがいい。本当に困ってたらこんなところで相談してない。相談できないからヤングケアラーになってる。
もっと支援がいると思う。
もっと親がしっかりしてほしい
もっと大人がやってほしいことがあるのにしてくれない事が多いからもっとやってほしい。
もっと隣の家の人に手伝ってもらったり介護の所に連れてってあげてほしい。
ヤングケアラーだと気づかずに親の世話、家事をしている子も絶対にいると思う。でも、それを聞いて救われる子もいれば、それに気づくと余計に辛くなってしまう子もいると思うから、周りの大人のサポートが大事。その子にはなにがぁっているのか丁寧に考えなきゃいけない。でも、特別扱いをしすぎてもいけない。難しい。
ヤングケアラーとわかったら家事や家族の世話をできるだけ手伝ってほしい。
ヤングケアラーについての講座を実施する
ヤングケアラーについてもっと教えべき。
ヤングケアラーについてより親身になって考えたり、自ら行動して支え合うこと。
ヤングケアラーの子はこころや体も疲れていると思うから寄り添ってあげて支援してほしい。
ヤングケアラーの実態をもっとわかりやすくしたほうがいい
ヤングケアラーの人が保護された後のことを説明してほしい。(不安をなくすため)
ヤングケアラーの人たちの生活を改善する制度を作ることが必要。
ヤングケアラーの人にはかじだいこうサービスとかやったらいいと思う。
ヤングケアラーの人を見つけたら周りの大人が相談してほしい
ヤングケアラーをしている人は、誰かがやらないから自分がしなくてはいけない、と考えていると思うので、一日だけでもいいから、周りの大人に交代できるよう、そういったボランティアの方がいて欲しい。
ヤングケアラー自身が、自分のことを大切にできるようにしてほしい。
ヤングケアラー本人が本当に困っているなら、助けてあげてほしい。本人が困ってないかったり、大丈夫そうなら、無理に助けることのないように、見守ってあげてほしい。
一人で障害の人などのお世話をするのではなくみんなが協力してちょっとずつちょっとずつ障害を持っている人などのお世話をするほうが良いと思いました。(もちろん障害を

<p>持っている人の気持ちにもよります。)</p>
<p>近所の人達が協力して子供や若者の負担をできる限り減らすこと。</p>
<p>困っていることがないかを聞いて安心感を与えること</p>
<p>困っているひとを見つけたらすぐに助けに行ってもらいたいこと。</p>
<p>仕事の一つとしてヤングケアラー専用の人を作ったほうがいいと思う。</p>
<p>子どもたちをもっと気にかけてほしい</p>
<p>子供がヤングケアラーだと気づく機会を与えてあげてほしい。</p>
<p>子供にばっか、物事をおしつけない。ヤングケアラーの子供の立場になって考えることも必要だと思う。</p>
<p>子供を産むときはその先のことまで責任を持ってほしい</p>
<p>子供側の気持ちを考えてほしい</p>
<p>自分ではヤングケアラーだと気づくことができない場合が多いと思うからいろんなことを話す、などのコミュニケーションを普段から取る必要があると思う。</p>
<p>自由時間を作ってほしい。僕のせいばかりにしないでほしい。年下優先しないでほしい。弟がいったことを優先しないで僕と公平にしてほしい。</p>
<p>助けてほしいような人がいたら素通りせず助けてあげてほしいと思う</p>
<p>大人がまともだったらこのようなことにはならないと思いました</p>
<p>大人は責任感を持って家事をしてほしい。</p>
<p>悩みをちゃんと聞いて欲しい</p>

## IV 江南市のヤングケアラーの現状と今後の支援

### 《江南市のヤングケアラーの現状》

- 家事（家の仕事）やお世話をしている児童・生徒の割合は、小学生、中学生ともに40.2%でした。この調査では、本来大人がするような家事や役割を担ったり、家族のお世話をする場合の回答を求めましたが、簡単なお手伝いとの区別が難しかったようで、回答の割合が2022年の愛知県の調査より高い結果となりました。
  
- ヤングケアラーを知っている児童・生徒の割合は、小学生は20.4%、中学生は33.9%と低い結果でした。自由意見では、ヤングケアラーについて今回のアンケート調査で初めて知ったという意見があったほか、もっと知りたい、もっと周知が必要、大人も知るべき、相談先が必要など、様々な意見があり、アンケート調査が児童・生徒への周知や気づきにつながったと思われます。
  
- ヤングケアラーに当てはまると回答した児童・生徒は、2.4%の80人でした。これは2022年の愛知県の調査とほぼ同様の割合です。
  
- 週3日以上かつ1日平均2時間以上家事（家の仕事）やお世話をしていると回答した49人のうちヤングケアラーに当てはまると回答した児童・生徒は7人で、家事（家の仕事）やお世話の時間が長く負担が大きいと思われる児童・生徒が、必ずしもヤングケアラーと自認しているわけではないことが分かりました。一方で時間的な負担がそれほど大きなくても、ヤングケアラーと自認している児童・生徒は一定数いることから、ヤングケアラーとして支援を必要とするかどうかは一人ひとり違い、また自覚がない場合もあると思われ、気になる児童・生徒がいた場合には丁寧に話を聞いていく必要があると分かりました。

### 《今後の支援方針》

市では調査結果を踏まえ、今後のヤングケアラーの支援方針を次のように定めます。

#### ①「ヤングケアラー」について周知・啓発をします。

ヤングケアラーについて、大人も子どもも正しく理解することが重要です。小中学校等へのリーフレット配布や、広報・ホームページへの記事掲載、地域の関係機関への研修等を実施し、地域全体の認知度をあげていきます。

②「ヤングケアラー」が相談しやすい環境を整えます。

ヤングケアラーは、自覚がないなどの理由から、自ら相談することが困難な場合が想定されます。また、家族のことを話したくない、知られたくないという気持ちから、誰にも言えない人もいます。周りの大人が気づき、寄り添い、安心して話すことができる環境を整えていきます。

③「ヤングケアラー」を見つけて支援します。

ヤングケアラーを見つけた時、子どもがどのような支援を望んでいるのか、丁寧に聞き取っていくことが重要です。なおヤングケアラーを見つけていくためには、すでに福祉サービスを受けている家庭においては、サービス提供事業者からの情報が重要です。また、まだ福祉サービスにつながっていない家庭においては、学校や地域から情報提供をいただくことで、福祉サービスへつないだり、安心してヤングケアラーの負担を減らしていくことができます。様々な関係機関がヤングケアラーを見つけ、支援につなげていきます。